

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年10月6日(2016.10.6)

【公開番号】特開2015-134020(P2015-134020A)

【公開日】平成27年7月27日(2015.7.27)

【年通号数】公開・登録公報2015-047

【出願番号】特願2014-5977(P2014-5977)

【国際特許分類】

A 6 1 F 13/496 (2006.01)

【F I】

A 4 1 B 13/02 V

【手続補正書】

【提出日】平成28年8月22日(2016.8.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

縦方向及びそれに直交する横方向を有し、前後ウエスト域の一方である第 1 ウエスト域と、前記前後ウエスト域の他方である第 2 ウエスト域と、前記第 1 及び第 2 ウエスト域間に位置するクロッチ域とを含み、前記第 1 及び第 2 ウエスト域において前記縦方向へ延びる側縁部どうしが互いに重なり合って接合された使い捨てのパンツ型着用物品において、

前記第 1 ウエスト域の側縁部の近傍において変形抑制手段が取り付けられており、

前記第 1 及び第 2 ウエスト域のうちの少なくとも前記第 1 ウエスト域は前記横方向において弾性を有する弾性域を含み、

前記変形抑制手段は前記第 1 ウエスト域に固定されたシート部材から構成されており、前記第 1 ウエスト域の弾性域が収縮することによって前記第 1 ウエスト域から外方へ凸曲する少なくとも 1 つの凸曲状部を有し、前記第 1 ウエスト域と前記凸曲状部との間には前記縦方向へ延びるスペースが形成されることを特徴とする着用物品。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 4】

前記変形抑制手段を構成するシート部材が、前記近位部を形成する内層シートと、前記遠位部を形成する外層シートとから構成される請求項 2 に記載の着用物品。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 8】

前記掛止め域は、メカニカルファスナのフック要素を有するフックシートから形成されており、前記繊維不織布シートの折り畳まれた状態における、前記掛止め域の存在領域を除く部分の前記変形抑制手段の両側縁どうしが互いに近づく方向の K E S 曲げ剛性値は $0.04 \sim 0.44 \text{ gf} \cdot \text{cm}^2 / \text{cm}$ 、前記掛止め域の存在領域における前記変形抑制手

段の両側縁どうしが互いに近づく方向のK E S曲げ剛性値は $0.56 \sim 1.8 \text{ g f} \cdot \text{cm}^2 / \text{cm}$ である請求項6に記載の着用物品。

【手続補正4】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項9】

前記遠位部のうちの前記近位部と前記掛止め域との間には、前記近位部よりも剛性の高い高剛性域が形成される請求項7又は8に記載の着用物品。

【手続補正5】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項10

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項10】

前記遠位部は、折曲された状態で前記横方向において離間する第1及び第2仮止め部を介して前記近位部に仮り止めされており、前記近位部と対向して位置する第1遠位部と、前記第1遠位部の外面側に位置し、かつ、その内面に前記第2ウエスト域の外面に剥離可能に掛止めするための掛止め域を有する第2遠位部とを有し、前記第1遠位部の前記近位部と対向する面には、両端が前記第1及び第2仮止め部と重なる固定部を介して前記近位部に固定されたシート片が配置される請求項2に記載の着用物品。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

本開示は、使い捨てのパンツ型着用物品に関し、より詳しくは、ウエスト域の変形抑制手段を有する使い捨てのパンツ型おむつに関する。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

図面は、本発明の特定の実施の形態を示し、発明の不可欠な構成ばかりでなく、選択的及び好ましい実施の形態を含む。

【図1】本発明の第1実施形態における使い捨てのパンツ型着用物品の一例として示す、背面側から見た使い捨ておむつの斜視図。

【図2】おむつのシーム部を剥離して前後方向に伸展した状態をその内面から見た一部破断展開平面図。

【図3】おむつの分解斜視図。

【図4】図2のI V - I V線に沿う模式的断面図。

【図5】使用状態におけるおむつを側面から見た図。

【図6】図1のV I - V I線に沿う断面図。

【図7】第2実施形態における図6と同様の図。

【図8】第3実施形態における図6と同様の図。

【図9】第4実施形態における図6と同様の図。

【図10】第4実施形態における変形抑制手段を展開して、前ウエスト域に掛け止めた

状態を示す、おむつを正面から見た斜視図。

【図 1 1】図 1 0 の X I－X I 線に沿う模式的断面図。

【図 1 2】第 4 実施形態における変形抑制手段を使用しておむつを丸めた状態を示す図。

【図 1 3】第 5 実施形態における図 6 と同様の図。

【図 1 4】第 5 実施形態における図 1 1 と同様の図。

【図 1 5】第 6 実施形態における図 6 と同様の図。

【図 1 6】第 6 実施形態における変形抑制手段を展開して、前ウエスト域に掛け止めした状態を示す、おむつを側面から見た図。

【図 1 7】第 6 実施形態における図 1 6 の X V I I－X V I I 線に沿う断面図。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 5】

図 2 を参照すると、後ウエスト域 1 4 は、後ウエスト弾性体 3 5 によって少なくとも横方向 X への弾性を付与されたウエスト開口弾性域 4 7 及び後上方弾性域 5 1 と、後弾性シート 4 9 及び弾性体 5 0 とによって少なくとも横方向 X への弾性を付与された後下方弾性域 5 2 とを有する。各弾性域 4 7, 5 1, 5 2 は、後両側縁 1 4 c, 1 4 d 間において、後ウエスト域 1 4 の縦方向 Y の寸法 L 1 を 3 等分した大きさを有する。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 1】

図 1 0 及び 1 1 を参照すると、第 1 及び第 2 仮止め部 8 4, 8 5 の止着を解除して変形抑制手段 2 0 を展開し、展開した変形抑制手段 2 0 を第 2 遠位部 8 2 の掛止め域 8 8 を介して前ウエスト域 1 3 の外面に掛止することができる。変形抑制手段 2 0 のベースシート 8 0 は繊維不織布製である場合には、それが比較的剛性の高いプラスチックシートから形成される場合に比して柔軟であって、湾曲した前ウエスト域 1 3 の外面に沿って延びることができ、おむつ 1 0 の横方向 X (胴周り方向)における収縮を阻害することなく、かつ、たくれ防止となる変形抑止手段としての形態をなすこともできる。前記のとおり、近位部 2 1 が後ウエスト域 1 4 の収縮に合わせて変形し易く、遠位部 2 2 全体にはそれを後ウエスト域 1 4 側に引っ張ろうとする力が作用する。したがって、前ウエスト域 1 3 の外面に掛止めされた遠位部 2 2 が後方へ引っ張られて、おむつ 1 0 の両側部 1 8 が近位部 2 1 と遠位部 2 2 との間で引き寄せられるので、前後ウエスト域 1 3, 1 4 を着用者の身体にフィットさせることができ、サイズ調整が容易である。このように、変形抑制手段 2 0 はそれを展開しない状態において、後ウエスト域 1 4 におけるたくれ落ちを防止することができる一方、それを展開して掛止め域 8 8 を前ウエスト域 1 3 の外面に掛止めすることによって、ウエスト回りの寸法と小さくしてサイズ調整することができ、これらのいずれかの使用態様を二者択一的に選択することができる。

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 4】

以上に記載した本発明に関する開示は、少なくとも下記事項に整理することができる。

縦方向及びそれに直交する横方向を有し、前後ウエスト域の一方である第 1 ウエスト域

と、前記前後ウエスト域の他方である第2ウエスト域と、前記第1及び第2ウエスト域間に位置するクロッチ域とを含み、前記第1及び第2ウエスト域において前記縦方向へ延びる側縁部どうしが互いに重なり合って接合された使い捨てのパンツ型着用物品において、前記第1ウエスト域の側縁部の近傍において変形抑制手段が取り付けられており、前記第1及び第2ウエスト域のうちの少なくとも前記第1ウエスト域は前記横方向において弾性を有する弾性域を含み、

前記変形抑制手段は前記第1ウエスト域に固定されたシート部材から構成されており、前記第1ウエスト域の弾性域が収縮することによって前記第1ウエスト域から外方へ凸曲する少なくとも1つの凸曲状部を有し、前記第1ウエスト域と前記凸曲状部との間には前記縦方向へ延びるスペースが形成される。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0055

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0055】

上記段落0054に開示した本発明は、少なくとも下記の実施の形態を含むことができる。該実施の形態は、分離して又は互いに組み合わせて採択することができる。

(1) 前記変形抑制手段は、前記第1ウエスト域に固定された近位部と、前記近位部に分離可能又は分離不能に固定された遠位部とを有し、前記近位部が前記第1ウエスト域とともに収縮することによって、前記遠位部に前記凸曲状部が形成される。

(2) 前記近位部と前記遠位部とが前記横方向において互いに離間する複数の固定部を介して固定されており、前記固定部間に位置する前記遠位部に前記凸曲状部が形成される。

(3) 前記変形抑制手段を構成するシート部材が、前記近位部を形成する内層シートと、前記遠位部を形成する外層シートとから構成される。

(4) 前記外層シートの剛性が前記内層シートの剛性よりも高い。

(5) 前記変形抑制手段が繊維不織布シートから形成される。

(6) 前記変形抑制手段において、前記遠位部は、前記第2ウエスト域の外面に剥離可能に掛止めするための掛止め域を有し、折曲された状態で仮止め部を介して前記近位部に仮り止めされており、前記仮止め部は、前記横方向において離間する第1及び第2仮止め部を有し、前記掛止め域は、前記第1及び第2仮止め部間における前記遠位部の内面に位置する。

(7) 前記掛止め域は、メカニカルファスナのフック要素を有するフックシートから形成されており、前記繊維不織布シートの折り畳まれた状態における、前記掛止め域の存在領域を除く部分の前記変形抑制手段の両側縁どうしが互いに近づく方向のKES曲げ剛性値は $0.04 \sim 0.44 \text{ g f} \cdot \text{cm}^2 / \text{cm}$ 、前記掛止め域の存在領域における前記変形抑制手段の両側縁どうしが互いに近づく方向のKES曲げ剛性値は $0.56 \sim 1.8 \text{ g f} \cdot \text{cm}^2 / \text{cm}$ である。

(8) 前記遠位部のうちの前記近位部と前記掛止め域との間には、前記近位部よりも剛性の高い高剛性域が形成される。

(9) 前記遠位部は、折曲された状態で前記横方向において離間する第1及び第2仮止め部を介して前記近位部に仮り止めされており、前記近位部と対向して位置する第1遠位部と、前記第1遠位部の外面側に位置し、かつ、その内面に前記第2ウエスト域の外面に剥離可能に掛止めするための掛止め域を有する第2遠位部とを有し、前記第1遠位部の前記近位部と対向する面には、両端が前記第1及び第2仮止め部と重なる固定部を介して前記近位部に固定されたシート片が配置される。